

海外安全対策情報・令和6年度第4四半期

1. 社会・治安情勢

日本と比べてキャッシュレス化が進んでおり、人々が現金を持ち歩かない生活になっていることから、連邦直轄区の街頭犯罪で目立つのは、「スマートフォン」を狙った犯罪です。

特に、衛星都市及びブラジリア中心部(プラノピロト地区)周辺、ブラジリア大学付近、パラノア湖周辺施設では、路上強盗のほか、車上ねらい、自動車盗の犯罪が日常的に発生しています。

また、依然として違法薬物に関する犯罪(密売、使用、所持等)は日本と比べて非常に高く、使用者同士の傷害事件なども後を絶ちません。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

連邦区公安局による令和7年1月～3月の犯罪統計によれば、発生件数が多い犯罪について令和6年の同時期と比較すると、路上強盗、乗り物強盗、車上ねらいなどは約 7.3 パーセントの減少(4,675 件→4,333 件)、殺人や殺人未遂の数値は昨年と比べて約 22.2 パーセントの減少(320 件→249 件)が見られました。

減少したとはいえ、路上強盗及び路上窃盗だけをとってみても、2023 年1年間の日本全国における発生件数が 232 件なのに対し、ブラジリアだけでわずか3か月の発生件数が 2,628 件と、その多さは一目瞭然です。

また違法薬物の密売に対する取締りは昨年同時期に比べ約 26.1 パーセントの増加(625 件→788 件)が見られましたが、違法薬物の所持・使用に対する取締りは約 54.7 パーセントの減少(1024 件→464 件)が見られました。

日本人や日系人が多く居住、利用する ASA SUL 地区においては、携帯電話を目的とする盗難事件が多発していることから、食事や買い物中の携帯電話の所在には十分注意すると共に、路上における携帯電話の使用(いわゆる「歩きスマホ」)は、緊急事態以外では避けてください。

また、自家用車等を駐車する際は昼間であっても貴重品等を車内に置いたままにせずなるべく人目のつく場所に駐車するようにしましょう。

強盗犯罪の特徴として、殆どのケースでけん銃やナイフ等の凶器が使用されていますので、抵抗すると生命に危険が及びます。まずは「生命の安全を第一」に考えて行動してください。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件の発生は認知していません。

- 4 誘拐・脅迫事件発生状況
邦人被害は認知していません。
- 5 日本企業の安全に関わる諸問題
現在、特段の情報はありません。